

四十回記念展受賞者の声

絵画の部



文部科学大臣賞

小宮山修(千葉)
「足湯への小径」
(油彩)

受賞雑感 小宮山 修

この度の受賞につきましては、何か周囲の驚きの方が多く、その人たちの顔を見て本人がビックリしています。(それ位私には向いていない賞と受け止めております)ただ言えることは、絵と出会えて日々の生活が入ったことです。若かりし頃は分からないことが多かったけれど今は少しわかることがあります。悩んで苦しんだ結果の繰り返しが今の私の財産となっております。

そもそもカミさんに言わせると「下手な鉄砲も数撃てば当たるヨ、とにかく描きなさい」と素気ないのですが……

節目の第40回記念展に受賞できたことに何かの縁を感じます。最近はこの仕事の苦しさや絵筆を握った時のギャップが大きく、瞬間絵を描いている時がこんなに嬉しいことなのかと思う時が前以上に多くなりました。そして今日が迎えられる、これまでに指導下さった 前中尾不二夫会長に少しは恩返しが出来たことと思っております。

これがスタートです。これからも日々精進を重ねる所存です。当会を支えて下さっている皆様方の陰の力が絶大であり、不動の礎が在るからこそで、感謝いたします。そしてこの会が遅しく成長してゆくことを願ってお礼の言葉といたします。受賞有難うございました。



東京都知事賞

児玉八千穂(東京)
「月影」
(日本画)

「都知事賞を頂いて」

児玉八千穂

四十回記念展おめでとうございました。その四十年の間に大勢の諸先輩方の熱意があつただろうと思いを馳せた時、身の引き締まる心地が致します。私は三十回記念展に初めて応募し、その時は特選を受賞、三十五回記念展で文部科学大臣賞を、今回の記念展で東京都知事賞を受賞致しました。なんだか私にとって節目となる年が記念展と重なるようで不思議な縁を感じます。日本画だけの展覧会と違うことで、初めは戸惑いはあつたものの、様々な試行錯誤ができて、得難い機会を戴いたと今になって思います。改めて、ありがとうございます。

さて、以前からよく尋ねられたことですが、なぜ猫ばかりを描くのか、について。それは一番身近にいる野生動物だからです。ではなぜ野生動物が良いのか。不確実な生を精一杯生きているそこに魅力があるからです。今回の作品の親子猫の、近づいたら逃げ出すだろう緊張感が何とか描けたようで、私にとって記念すべき作品となりました。

草は街路樹の下に密生していた雑草です。猫の目線で見れば、まるで森で、猫族にとって身を隠せる野生の自然界を生きていることと同じなのだと思えました。

身近にこのようにいくらでも「描ける対象」があることに気づかせてくれたのも猫達のお陰だと思つて。猫達に、そして勿論、自由な制作が可能な新日美展に感謝を込めて様々なシーンを描き続けたいと思っております。



東京都議会議長賞

四方公子(京都)
「記憶の中の旅物語・II」
(水彩)

この度は思いもかけない賞を頂き、有難うございました。出展の前の勉強会では全く自信も無くまだまだいっぱい考え加筆して納得行く様にと、遠くから見、近くから見、色の具合、全体の安定

感等四苦八苦の毎日でした。そして梱包、発送とあつという間に日が過ぎて受賞の通知を頂いた時には身体がガタガタ震えるほどビックリと同時に大きな喜びを感じました。

私は旅行が好きで度々出かけます。行先は余り選ぶ事無く誘われたままに参加しています。が、行った先々では食べ物より景色を見る方に一生懸命で、同行の夫は、ツアーに逸れないか迷子にならないかいつも気が気で無い様です。

今年まで運良く一度もトラブルにも合わずキョロキョロしつかり見歩きしました。ガイドさんの案内もじっくり聞く間もなく、自分の見たい景色や物を追いかけて目に心に残しています。そして毎年その思い出をモチーフにして新日美に出展しています。

昨年に続き今年もドイツの田舎をバスで通った思い出を描きました。描きながらも次々と思いつく、それを絵にすると言う事で、対象物をそつくりそのまま描くのではなく思い出のページと考へての作品です。

今年はずいぶん腰やぎっくり腰と連続でしたが、これから色んな場所を思い出し精進して描き続けたいと思つています。

来年の京都府京都文化博物館での巡回展に多くの方々に来て頂き、都立美術館での展示とまた違った雰囲気各人の作品を拝見する事を楽しみにしています。

受賞のお礼感想文より、京都巡回展の勧誘みたいになりましたが、桜もきれいな時期と思ひます。どうぞ京都へお越しください。有難うございました。



新日美大賞

上原芳信(埼玉)
「散歩道」
(油彩)

この度は思いもかけぬ新日美大賞を頂き恐縮しております。六年前に本展に初めて応募入選し、企業賞を頂いて以来毎回参加させて頂きましたが、皆様

の絵に刺激を受け、次への制作の課題を見つけながら、描いて参ったことで少しづつ成長出来てきたのではないと思ひます。

今までは大きい作品への意識が強すぎたので中途半端な絵だったのかもしれない。今回はありのままの風景を自然と光、水を主なモチーフに安らぎにある絵となる様心がけました。

私自身は建築設計の仕事として続けて参りましたが、病気になるた事がきっかけで、海釣りや山歩きの趣味は諦め、今は自営にて建築設計と絵を描く事のみが生きて甲斐となり、楽しく絵に取り組んでいます。

最近スケッチは仲間と共に水彩で描くことが多く、油彩の表現にも良い影響が出るよう心がけています。題材は水のある風景が多く、これからも表現方法に技量を磨くことも課題です。

今回の受賞を励みに皆様のご指導を頂きながら楽しく描いて、より一層成長した絵になるよう頑張つて参りますのでこれからも宜しくお願いします。



中尾賞

石村空也(埼玉)
「緑の酒屋」
(油彩)

中尾賞を受賞して

石村 空也

四十周年記念の新日美展に名誉ある賞をいただき、ビックリすると同時に、有難く感謝しています。絵を描き始めて七年。今なお、油彩の基礎的な知識もなく、何も分からずに描いている状況です。

公募展への出品は四回目。これまで、二つのテーマの作品を描いてきました。ひとつは、亡き女房の「ふるさと(新潟・柏崎市)」の風景画。もうひとつが、好きな緑青の建物です。

これまで三回は、この二つの系統の作品を出品してきました。今回は、緑青の建物にテーマを絞って出品しました。郷愁を佩びた、独特の風合いに魅せられ描いています。百年近く今も現存する建物で、そこに住まわれている方との交流を深めながら、今後も緑青の建物を描きつづけていきます。

ありがとうございます。